

① <淀川水系西大阪ブロック河川整備計画> (H27.2.5答申)

第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

2. 河川空間の利活用

(1) 西大阪ブロックの水都事業

水辺拠点としての船着場整備、水辺の環境整備、護岸緑化などの整備の実施にあたっては、図-2.3に示す水の回廊とその周辺部に広がる水辺拠点を対象に「水と光のまちづくり推進会議」で決められた内容に基づき、地元住民や関係機関との連携を図りながら、表-2.3に示す整備を進めます。

表-2.3 水都関連事業

河川名及び施工場所	実施区間	事業内容	整備主体
西大阪ブロック内各河川	大川 堂島川 安治川 土佐堀川 木津川 尻無川 東横堀川 道頓堀川 住吉川	・遊歩道整備、船着場整備、護岸緑化、環境整備等 ・スーパー堤防整備	大阪府及び大阪市 (各河川管理者)

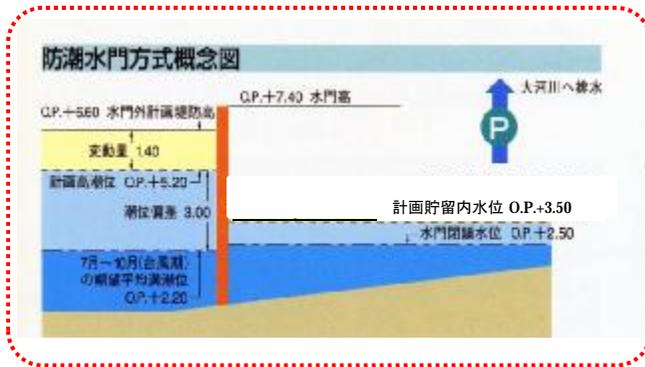


図-2.3 水都事業拠点図 (水と光のまちづくり推進会議)

② <河川管理施設の整備状況(西大阪地区)>

■高潮対策

旧淀川筋の高潮対策は、防潮堤防の築造に加えて、安治川水門、尻無川水門、木津川水門等の防潮水門（高潮の遡上防御）と淀川分流点の毛馬排水機場（内水の強制排水）により対応している。（整備済）



■洪水対策

寝屋川流域の洪水は、旧淀川筋から安治川、木津川、尻無川を通じて、大阪湾へ流下させて対応している。（整備済）

■耐震対策

現在、南海トラフ巨大地震に対して必要な耐震対策を実施している。（実施中）

- 3年以内 —— ①-1: 地震直後に満潮位で浸水する箇所
- 5年以内 —— ①-2: 津波により浸水する箇所
- 10年以内 ⋯⋯ ②-1: 地震直後に満潮位で浸水する箇所
- 10年以内 ⋯⋯ ②-2: 津波により浸水する箇所



番号(帯図の着色)	被害の要因
①-1 (赤・実線)	満潮位
①-2 (緑・実線)	L1津波
②-1 (赤・点線)	満潮位
②-2 (緑・点線)	L1津波

※当該箇所(赤丸)において、現時点で耐震対策の計画は無い。

③ <水都大阪 水と光のまちづくり構想 (2011.8.31) >

(9) 取組内容

② 水都大阪の新しい顔となるシンボル空間の創出

- 市民・地域・NPO、企業などが活躍する水都大阪のまちづくりを推進するため、空間の利活用ルールや仕組みづくりにつなげる社会実験等を実施しながら、官民協働で新しい大阪のシンボル空間を創出する。
- 新たに大阪城公園、中之島西部～安治川、大阪ドーム周辺などから重点区域として、既存空間の活用と新たな整備のあり方の検討を開始する。

既に形成されつつある都市デザインに、さらに魅力ある物語を生み出すエリア

新たな都市デザイン形成も含めて、まちをつかい、魅せる人々を生み出すエリア

のうち、水都大阪の資源が集中し、重点区域として検討を開始するエリア

